

農水省が期待の果樹新品種 良食味をいち早く

甘さ、食べやすさの需要に応える

農林水産省が現場への導入が期待される成果をまとめた「最新農業技術・品種2023」では、需要に応える果樹新品種として、農研機構育成の「スモモ」「ハニートマト」と「ほろすけ」を選定した。いずれも既存品種より早い時期から収穫でき、甘さや食べやすさなど消費ニーズに対応した付加価値を備える。

高糖度で7月中旬の収穫 スモモ ハニートマト

酸味が少なく高糖度の「スモモ」と同時期。糖度は15%程度、酸味はpH4.4程度。果実は球形で、果皮が好む消費者嗜好に対応できる。育成地(茨城県つくば市)の収穫期は7月中旬ごろで、主要品種「ソルダム」より約10日程度早い。今後は、苗木の供給が予定され、西日本の産地を中心に60%程度の普及が期待される。

渋皮むきやすくホクホク クリ ほろすけ

早生の二ホンクリ品種で、渋皮をむきやすい性質を持つ。育成地(茨城県つくば市)での収穫期は同じく渋皮がむきやすい「ほろすけ」よりも1週間程度早い。8月下旬～9月上旬。ほろすけと同様に全国的に流通が期待されている。鬼皮の上から果肉に達する程度。1樹当たりの収量や双子果、腐敗果、虫害果の発生率はいずれも、丹沢と同程度。裂果の発生は丹沢より若干少ない。



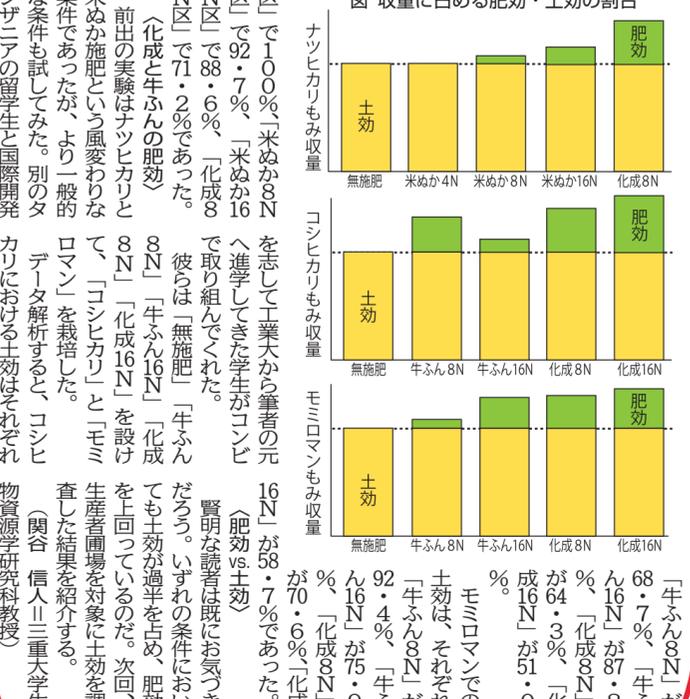
ぼろたん ぼろすけ 丹沢

中心に輪紋が発生しやすく、成熟後に降雨が多いと裂果が多くなる可能性がある。スモモの主要品種は酸味が強く、現在の消費者嗜好に合わず、生産が大きく減少している。既存の酸味が少ない品種は中生以降が主流だった。同省は、スモモの流通前に市場からの需要に応える国産果実と評価して品種よりも少ない。果樹部

水稲の無施肥試験で知る 田んぼの土効

連載第1回では、無施肥区により肥効を測ることができ、理由を解説した。今回は、筆者の研究グループがその理由に基いて推定した肥効や土効、筆者の造詣で土壌の効果について紹介したい。

近隣の若手農家から「米ぬかの肥効を調べてほしい」と依頼され、タンザニアの留学生無施肥試験で土壌を調査する留学生

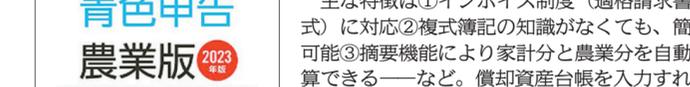


区で100%、米ぬか8Nを志して工業大から筆者の元区で92.7%、米ぬか16Nで88.6%、化成8Nで71.2%であった。彼らは「無施肥」「牛ふん」「化成」という風変わりな条件であったが、より一般的な「データー解析すると、コシヒカリにおける土効はそれぞれ

「牛ふん8N」が68.7%、「牛ふん16N」が87.8%、「化成8N」が64.3%、「化成16N」が51.0%。モミロマンでの土効は、それぞれ「牛ふん8N」が92.4%、「牛ふん16N」が75.9%、「化成8N」が70.6%、「化成16N」が58.7%であった。賢明な読者は既にお気づきだろう。いずれの条件においても土効が過半を占め、肥効を上回っているのだ。次回、生産者圃場を対象に土効を調査した結果を紹介する。(関谷 信人 三重大学生 物質源学専攻教授)

マコモの茎葉をサイレージ化

岡山県浅口市のおかやま山陽高等学校・進学コース地域探究班は、イネ科の多年草・マコモの未利用部分である茎葉をサイレージ化し、乳牛に与える飼料利用を単荘で実証。産廃されたマコモ茎葉を無農薬栽培の圃場から回収し、サイレージ化して飼料とした。



未利用資源のマコモ茎葉をサイレージ化した

岡山県浅口市のおかやま山陽高等学校・進学コース地域探究班は、イネ科の多年草・マコモの未利用部分である茎葉をサイレージ化し、乳牛に与える飼料利用を単荘で実証。産廃されたマコモ茎葉を無農薬栽培の圃場から回収し、サイレージ化して飼料とした。

マコモの茎葉をサイレージ化して飼料とした。岡山県浅口市のおかやま山陽高等学校・進学コース地域探究班は、イネ科の多年草・マコモの未利用部分である茎葉をサイレージ化し、乳牛に与える飼料利用を単荘で実証。産廃されたマコモ茎葉を無農薬栽培の圃場から回収し、サイレージ化して飼料とした。

高畝で排水対策 株間を広く

山梨県野中 昌浩さん【山梨支局】身延町西嶋の中昌浩さん(81)は水稲21年に加え、ブランド大豆「あけぼの大豆」25アールを栽培する。水はけを良くするため畝高は20センチに、株間45センチ、畝幅90センチと広く取って風通しを良くして病害虫の発生を防ぐ。

一般的な大豆の大きさを0.8センチに対し、1.2センチ前後と大粒で、甘みが強く濃厚な味わいが特徴だ。6月下旬に播種し、11月下旬ごろ刈り取る。夏は土寄せも兼ねた除草を毎日欠かさない。8月末に尿素を10アールあたり5キロ追肥。一畝に十分な肥料を行き届かせるため、花が咲いた後に「アケボノ」を散布し、刈り取り後は畝上で3〜4日ほど乾燥させた後、脱穀する。「身延町あけぼの大豆拠点施設」の機械で大きさを選別後、自宅で見た目の良さしを妻の孝子さん(78)と手作業で分けていく。

カラムシやマメシクイなどの害虫と、紫斑病が1番のリスクという。野中さんは「NOSAIが8月末から9月に3回実施する無人ヘリコプター一斉防除は、本当に助かっています」と話す。

あけぼの大豆は同町地区の種子を使い、町内だけで栽培される。昨年、地理的表示(GI)保護制度に登録された。

植物の力を引き出す 成分微生物の効果

微生物はそれぞれ固有の特性があり、好適条件(共生や寄生、エサ、水分、温度)は種類により異なります。また、微生物の活性は環境に大きく左右され、期待される効果が不安定になりがちです。

土着菌との競争(先住・競合・拮抗)、圃場環境により植物根に定着しにくい、投入した微生物の活性低下や死滅、また要因により微生物を投入すれば効果が出る、といった切れない難しさがあります。

バイオスティミュラントとしての微生物は植物と共生し効果を引き出す「共生型」

と、土壌環境を整えて植物をより良い生理状態に導く「土壌改良型」に大別できます。

AM菌は特定の植物と共生し、植物側から光合成産物を受け取る代わりにリン酸の吸収を助けるほか、根量増加、土壌環境ストレス(塩・乾燥)の耐性向上をもたらします。根粒菌やトリコデルマも共生型の微生物として現場で利用されています。

バイオスティミュラントとして発根力向上、ストレス耐性向上

パチルス菌は有機物を分解して土壌団粒を作るほか、植物の根の周りにパイオフィルムを形成することで、土壌中の病原菌との拮抗・競争や養分供給(リン酸・鉄の可溶化)をサポートします。酵母や乳酸菌、放線菌も、主に土壌改良型の微生物として利用されています。

高木 篤史(株サカタのタネ ソリユーション統括部 主席技術員)

「AM菌」は特定の植物と共生し、植物側から光合成産物を受け取る代わりにリン酸の吸収を助けるほか、根量増加、土壌環境ストレス(塩・乾燥)の耐性向上をもたらします。根粒菌やトリコデルマも共生型の微生物として現場で利用されています。

パチルス菌は有機物を分解して土壌団粒を作るほか、植物の根の周りにパイオフィルムを形成することで、土壌中の病原菌との拮抗・競争や養分供給(リン酸・鉄の可溶化)をサポートします。酵母や乳酸菌、放線菌も、主に土壌改良型の微生物として利用されています。

「らくらく青色申告農業版 2023年版」

株式会社セーブは、初心者でも簡単に決算書を作成できる農業者(個人)専用のPCソフト「らくらく青色申告農業版 2023年版」を発売した。

主な特徴は①インボイス制度(適格請求書等保存方式)に対応②複式簿記の知識がなくても、簡単に記帳可能③摘要機能により家計分と農業分を自動で案分計算できる④償却資産台帳を入力すれば、減価償却費が自動計算でき、消費税計算書も簡単に作成できるという。メーカー希望小売価格(税込み)は8800円、更新版は23年3月まで4400円、4月以降は5500円。

問い合わせ先=株式会社セーブ(〒997-0804 山形県鶴岡市斎藤川原字間々下116の1 ☎0235-24-7388)まで。



「らくらく青色申告農業版 2023年版」

ニンジン新品種「アロマ809」

株式会社トーホクは、春まきで安定した早生性を示すニンジン新品種「アロマ809」を発売した。

主な特徴は①根長は17~18センチで、尻詰まりが良く、やや肩が張る円筒形②黒葉枯れ病やシミ症に強く、裂根が少ないことから収量が安定③冷涼地の夏秋どりも可能——など。適作型は、冷涼地(北海道南部

から東北)は3月まきトンネル栽培から4月中旬まきベタ掛けで、北海道は6月まき。中間地は1月下旬から2月まきトンネル栽培と8月中旬まき、暖地は1月まきトンネル栽培、8月下旬から9月上旬まき。

問い合わせ先=株式会社トーホク(〒321-0985 栃木県宇都宮市東町309 ☎028-611-5050)まで。



ニンジン新品種「アロマ809」

新製品紹介

株式会社サカタのタネは、植物の健全な生育をサポートする農園芸肥料「高機能液肥 シリ」をリニューアルしたと発表した。

「シリ」は「サカタマモル」シリーズに改め、商品名は「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

業界短信

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。

「サカタマモル」シリーズの商品は「アラフェ」シリーズ、「サカタ液肥G」シリーズの全8品で、新パッケージとラベルをリニューアルしたと発表した。